



2023年5月11日

各位

会社名 ネクストウェア株式会社
 代表者名 代表取締役社長 豊田 崇克
 (コード:4814 東証スタンダード市場)
 問合せ先 取締役執行役員 渡邊 博和
 (TEL. 06-6281-9866)

連結業績予想の修正および剰余金の配当 並びに個別業績見込みの前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年5月16日に公表しました2023年3月期の連結業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、本日開催の取締役会において、2023年3月31日を基準日とする剰余金の配当を決議いたしましたのでお知らせいたします。

なお、当社は個別業績予想を開示しておりませんが、2023年3月期の個別業績見込みと前期実績値との間に差異が生じる見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

1. 連結業績予想の修正

2023年3月期通期連結業績予想数値の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,000	百万円 30	百万円 60	百万円 30	円 銭 2.36
今回修正予想 (B)	2,890	△25	36	11	0.92
増減額 (B - A)	△109	△55	△23	△18	—
増減率 (%)	△3.6	—	△39.8	△61.1	—
(参考) 前期連結業績 (2022年3月期)	2,918	52	92	686	54.04

(修正の理由)

ソリューション事業におきましては、DX（デジタルトランスフォーメーション）化推進に伴うIT需要の高まりを背景に、顔認証ソリューションの受注が堅調に推移しましたが、2021年9月に株式を譲渡した子会社の連結除外による影響を補うことが出来ず、前回予想より減収減益となる見込みです。また、エンターテインメント事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初予定した公演計画が実現できず、前回予想より減収減益となる見込みです。

これらの結果、連結売上高並びに損益は前回予想を下回る見込みとなりました。

2. 剰余金の配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2022年5月16日)	前期実績 (2022年3月期)
基準日	2023年3月31日	同左	2022年3月31日
1株当たり配当金	2円00銭	0円00銭	3円00銭
配当金の総額	25百万円	—	38百万円
効力発生日	2023年6月30日	—	2022年8月16日
配当原資	利益剰余金	—	その他資本剰余金

(ご参考) 年間配当の内訳

基準日	1株あたり配当金 (円)		
	第2四半期末	期 末	合 計
当期実績 (2023年3月期)		2円00銭	2円00銭
前期実績 (2022年3月期)		3円00銭	3円00銭

(理由)

当社では、株主の皆様に対する利益還元を経営上重要な施策の一つとして位置付けており、将来における安定的な企業成長と経営環境の変化に対応するために必要な内部留保資金を確保しつつ、経営成績に応じた利益還元を継続的に行うことを基本方針としております。

2023年3月期の期末配当につきましては、上記方針に基づき業績の状況を勘案し、1株当たり2円の配当を決定いたしました。

なお、当社は剰余金の配当を取締役会決議により行うことが出来る旨を、定款に定めております。

3. 2023年3月期通期個別業績見込みの前期実績値との差異

(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値 (A) (2022年3月期)	百万円 2,145	百万円 54	百万円 55	百万円 754	円 銭 59.39
当期実績見込み (B) (2023年3月期)	2,241	△40	50	36	2.89
増減額 (B - A)	96	△95	△5	△717	—
増減率 (%)	4.5	—	△9.2	△95.1	—

(増減の理由)

当社は、急速に変化するデジタル社会に対応すべく AI・RPA・顔認証等新たなソリューションによる新規顧客の開拓に邁進し、前期に比べ売上高は増加しました。2021年9月に子会社売却で得た資金を積極的にDX事業へ投資しており、IT人材教育に加え情報セキュリティ分野への人材強化など、AI・クラウド事業の推進に着手した結果、一部の費用が増加したことや、2021年9月に譲渡した子会社からの業務受託収入の減少などにより営業利益が減少しました。一方、子会社からの株式配当金の受け入れなどにより経常利益は前期並みとなりました。なお、前期は連結子会社ネクストキャディックス株式会社の全株式譲渡による特別利益を計上しました。当期は特別利益の計上がないため当期純利益は減少する見込みであります。

- (注) 1. 上記の見通しは、本資料作成日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後様々な要因によって記載内容と異なる可能性があります。
2. 今回修正予想の1株当たり当期純利益については、期末の期中平均株式数(自己株式控除後)12,706,503株に基づいて算出しております。

4. 今後の見通し

本件の期末配当は剰余金の処分のため、業績に与える影響はありません。

以上